

# これが 第363号 公民館報

御意見・御希望・お問い合わせは四賀公民館まで… TEL 64-3112

## 未来へつなぐ 私たちのまちづくりの集い

### 四賀の世帯数・人口

世帯数	1,793	世帯
人口	3,709	人
男	1,800	人
女	1,909	人

(令和8年3月1日現在)

2月15日(日)、第41回松本市公民館研究集会、令和7年度松本市地域づくり市民活動研究会がMウイング会を会場に開催されました。



アルウインの会場で発表しました。当日は約40人が参加。発表では、四賀の駅伝は昨年66回目を数え、地域で独自に開催している駅伝大会では、長野県で最も歴史があることや、安全対策のため地域の方々が、100人以上も協力していることなどを話しました。走る選手よりも多くの人が裏方として駅伝に携わっていることに、参加者の皆さんは驚いていました。

午前のは全体会では、長野大学社会学部福祉学部の早坂淳教授が、「多様性×協働」新しい価値」をテーマに講演されました。多様な人や考え方が力を合わせることで、地域のまちづくりにとどのような新しい価値が生まれるのか、参加者一人ひとりが、あらためて地域の可能性について考える時間となりました。

午後は5つの分科会に分かれ、「地域の自治活動」「地域課題解決」「子ども・若者」「地域の基盤づくり」「地域資源」をテーマに意見交換が行われました。



その中の第5分科会「身近にある資源に気づく、地域と共に活かす」では、四賀一周駅伝競技大会が取り上げられ、花村公民館長がサンプル

あることや、安全対策のため地域の方々が、100人以上も協力していることなどを話しました。走る選手よりも多くの人が裏方として駅伝に携わっていることに、参加者の皆さんは驚いていました。四賀地区の「身近にある資源」の一番目はさまざまな場面で力を貸してくれる「人」ではないでしょうか。駅伝大会を支えてきた地域の皆さんの思いこそが、四賀の宝であることを、あらためて感じる発表となりました。



松本地方の伝統の飾り物・手まり作りの教室が支所で開催され8名が参加しました。2月12日から3月5日までの毎週木曜日の全4回で、色鮮やかな世界に一つだけの手まりを土台から作りあげました。初日はまず丸い土台を作ります。講師の小林康男さんの指導で、ストッキングにもみ殻を詰め白や紺などの糸で巻き丸い形に整えます。2回目からは色とりどりの糸で幾何学模様を巻きあげていきます。皆さん手まり作りは初めての経験。「肩が凝るね」「外仕事が始まる前の楽しみ」などおしゃべりしながら根気のいる細かい手仕事に集中していました。

手仕事を楽しくむ 手まり教室



### 初心者そば打ち教室

2月28日

(土)、初心者そば打ち教室が開催され、9名が参加しました。はじめに講師の竹内雅子先生によるお手本が披露されました。工程は一見簡単そうに見えますが、「人さまに出せるようになるには300回は打たないといけない」といわれている」とのお話もあり、参加者の皆さんは熟練の技に真剣なまなざしを向けていました。



一通り工程を見学した後には、いよいよ各自で粉からそば打ちに挑戦。均一に伸ばすのはなかなか難しい様子でしたが、先生の指導のもと丁寧に作業を進め、皆さん無事にお土産用のそばを仕上げることができました。最後は先生が打ったそばを全員で試食しました。打ちたてならではの香りとコシのある味わいに、「おいしい」と笑顔が広がり、参加者の皆さんも大満足の様子でした。

ペタンク交流・体験会

松本ペタンク連盟の方々の交流会が1月10日(土)に四賀屋内ゲートボール場で開かれ18名が参加しました。ペタンクはルールもわかりやすく老若男女だれでも楽しめるニュースポーツです。

参加者による魅力をお聞きすると「思うようにいかないところが面白い」「一球で勝負が変わるのがいい」などと教えていただきました。ゲームは勝敗がつくので熱くなれるという方も。なごやかながらも一投一投にチームの視線が注がれ声援が飛びかかっていました。



藁で作る干支の午講座

1月10日(土)信州グリーンローズスタジアムにて、昨年好評だった藁細工の講座が開催されました。

藁細工作家の水垣カエル雪絵さんのご指導のもと今年も午年ということ、縁起良く干支の馬を作成しました！

思い思いの馬がたくさんできあがりました。皆さんそれぞれにウマくいく、良い一年となりますように。



バラの冬剪定講座



2月7日(土)四賀バラ公園で恒例の冬のバラ剪定が行われるのに併せて、講師の方から指導いただき冬剪定講座も行われました。あいにくの小雪交じりの天気にも関わらず、皆さんご参加いただきました。

冬剪定はシーズン中のバラを美しく咲かせるためにとっても重要な剪定なので、皆さん真剣にハサミを進めていました。美しいバラをお楽しみに！



里山に春の訪れを告げる

福寿草まつり2026

3月7日(土) 3月22日(日)

全国有数の規模を誇る赤怒田の福寿草群生地は1.5ヘクタールの斜面に約50万株が自生しています。今年は2月下旬から花が咲き始め3月中頃に見ごろを迎えました。

お孫さんと散策していた近所の女性は「今年は開花が遅め。草刈りなど整備も大変です」と穏やかな笑顔で話してくれました。上田と小諸から来たというグループは「広くてゆったり散策できて良い。花を見ると笑顔になる」とこちらも明るく答えてくれました。

まつり期間中は物販や飲食の販売もあり、普段は静かな地区が活気に包まれました。



開幕式 春の光のなか、まつりがスタートしました



湧き水

▼「AIは、素早く答えやヒントを示してくれる便利な存在です。しかし、最終的に考え、選り、責任を持つのは人間自身です。効率や正解だけを求めて任せ

きりにすると、自分の思考は次第に痩せていきます。違和感を覚えたり、立ち止まって迷ったりする時間を大切にしながら、AIを思考の補助線として使う。その距離感を意識することが、これからの健全な付き合い方だと思います。」  
：というこままでの文章は生成AIに作ってもらいました。  
▼AIなんてよく分からないし、何か薄気味悪くて怖いよね、と感じる方は多いかもしれません。AIで作った悪意のある偽画像とか偽ニュースが世界を誤った方向に導きかねない、そんな恐怖を感じる事件も起きています。▼革命的な技術革新は人間の暮らしを豊かにする一方で、誤った使い方が人々を不幸にします。技術とどう付き合って使いますか。人が初めて火を手にした時から数十万年にわたる永遠の課題です。人は思考を痩せさせることなく、賢くあり続けなければなりません。